

放送大学学園 (所在地：千葉市美浜区若葉2丁目11番地)

事業名

知的障害者のための教育コンテンツを用いた学習プログラムの開発

事業の趣旨・目的

・映像コンテンツ等を用いながら、コーチ、支援者、メンター等が問いかけ等により、理解を補ったり、主題の内容についての意見交換やレポートをまとめるなど、学ぶ場において工夫しながら学習するプログラムを開発する。

・このようなプログラムの実施体制を構築するとともに、大学が提供するプログラムとしての在り方についても検討を進める。

事業実施体制・連携先

・岩永放送大学長を研究代表、特別支援教育・知的障害教育担当の佐藤慎二客員教授(植草学園大学特別教授)を研究総括とし、本学の障害者支援に関わる教職員が関わる体制で事業を推進する。

・本プログラムに実際に関わっていただく団体により連携協議会を構築し、学修の現場の意見を踏まえながら検討を進める**予定**。

事業内容

1. 社会での自立を目指す知的障害者を対象として、教育コンテンツ(映像コンテンツ等)を活用し、コーチその他の学習支援者が支援しながら学習を行う生涯学習プログラムを実施する上での基本的な考え方を整理
2. この考え方をもとに、知的障害のある方の学習の場を提供する全国の関係団体に対して、教育コンテンツを用いて学習支援を行う学習プログラムの実施について、意向調査(アンケート)を実施する。
3. 放送大学において制作する知的障害者向けのコンテンツ(5年度デモ版制作、6年度制作予定)、及び放送大学の学生向け、一般向けの既存コンテンツを用いて、学習支援者が支援を行いながら学習するプログラムに関する実践
【知的障害がある方の生涯学習活動に取り組む教育機関・団体や、障害者が働く企業などから、5か所程度を想定】
4. 連携協議会等を通じて、学習実践についての報告をもとに、学修現場での成果や課題について検討を行う。また、学習内容や学習成果をもとに、大学が提供する生涯学習プログラムとしての在り方についての検討を行う。
5. このような成果や明らかになった課題をまとめ、シンポジウムの開催等により広く情報を共有し、プログラムの本格化を目指す。

事業終了後の目指す方向性

・大学が提供する教育コンテンツに学修現場での支援を加え、大学が提供する生涯学習プログラムの学習を行う体制を作り、障害のある方への多様な学びに寄与していきたい。

・このように提供するプログラムの質的な保障についても議論を行い、大学としての履修証明など新たな仕組みの構築にも繋げていく。

その他

・放送大学では障害に対して様々な対応を行ってきた実績に加え、遠隔教育の実施、特別支援教育科目の開設などがベースにある。

・令和5年度は、大学においてこのような学習機会を提供することの意義についての調査とともに、知的障害者の社会的自立に向けたコンテンツを制作したところ、学習支援とそのため体制の整備が必要不可欠であると認識し、今回の提案に至ったものである。